

退職者 NO.114-
こだま会報



物価が上がっても賃金が 下がれば年金を下げる 「年金カット法」は廃案を

今号の紙面

- ・コラム 散歩道 …… ①
- ・手作り文化祭／おすす
めの1冊／富岡製糸場
& 宝川温泉ツアー／歴
史教室／予告 …… ②③
- ・会員紹介 (小川達子さ
ん) …… ④
- ・戦争法1年／県職員九
条の会学習会 …… ⑤
- ・全国自治体退職者連絡
会総会／日本高齢者大
会 …… ⑥
- ・神奈川自治労退職者会
総会／津久井やまゆり
園問題 …… ⑦
- ・こだま俳壇／楽しい料
理教室／絵手紙 …… ⑧

世界遺産「富岡製糸場」へ



富岡製糸場&宝川温泉バスツアー (9月28~29日)

散歩道

トップさせるの
かが問われた。

子どもや孫に、
『平和でよかつた』『生きてい
てよかつた』とい
える日本をつ
くつていきたい』
と述べていま
す。平和は黙っ
ていては守れま
せん。

安保法(戦争
法)が多くくの国
民の反対のなか
で強行成立、今
年3月施行にな
りました。

そして憲法9
条の改悪や緊急事態条項の新設問
題。2016年度防衛予算は5兆円
を超え、沖縄の県民感情を無視した
米軍新基地の建設強行。自衛隊に武
器使用を伴う新任務を与え、内戦状

核兵器のない世界へ 「ヒバクシャ国際署名」をあなたも

片野 憲二



核兵器廃絶国際デー (9月26日)



署名を推める片野さん

『こだま会報』の総会
特集号(8月15日号)で
代表幹事の植木眞理子さ
んは挨拶のなかで、「こ
の1年間日本はどうなっ
たのか、一番大事にしたのは平和、
戦争の道に行くのか、それともス

態の他国へ派遣しようとしています。
* * *
しかしこの1年、「戦争させない」
「野党は共闘」を掲げ、たたかいて
進めた市民は、参議院選挙で貴重な
成果を勝ち取りました。大きな共闘
で政治を変えてきています。

の国際政治で初めての事です。
「ヒバクシャ国際署名」は世界で
数億筆を目標にとりくまれ、毎年国
連総会に提出します。あなたの署名
が世界を変えます。

私は核兵器廃
絶・核戦争阻止・
被爆者救援を掲げ
る原水爆禁止運動
の道に入り、7年
になります。いま
力を入れてとりく
んでいるのは「ヒ
ロシマ・ナガサキ」
の被爆者が訴える
「核兵器廃絶国際
署名」です。
この秋の国連総
会で、核兵器禁止
条約の交渉開始が
議論されます。核
兵器の禁止・廃絶
についての条約締
結の話し合いがも
たれるのは、戦後



富岡製糸場 & 宝川温泉ツアーで交流

こだま会てく・テクの会

9月28日朝、老老男女20人のバスツアーは、横浜天理ビル前を出発し一路富岡製糸場へ。製糸場に着きガイドさんの説明が始まった途端、「ザーツ」と雨が降り出しました。約1時間のガイドツアーの説明をかつまんで報告します。

* * *

明治維新のはじめ、西欧に追いつこうとした政府が、資金づくり策として生糸の輸出に目を付けました。1872年(明治5)、生糸の品質改良、生産性向上、技術指導者育成を目的とした官製の模範工場として、養蚕地、水、燃料などの立地条件を満たしたこの地が選ばれました。そして2014年に、「富岡製

(3面に続く)



文化祭

神奈川県職労連退職者会

第22回
ふれあい
手作り
文化祭



盛り上がった演芸

3階の作品展示コーナーには、切り絵や写真、絵手紙、絵画、手芸、俳句、川柳、押し花、ちぎり絵、書、編



作品鑑賞



切り絵の実演も

こだま会からは展示作品で、俳句、川柳、絵手紙、はがき、絵、絵画、手芸、書、写真、ワイヤーアート。演芸の部は、歌、ギター演奏、田宮流居合抜きなどでした。(鳥海敏雄)

神奈川県職労連退職者会の「第22回ふれあい手作り文化祭」が10月29日10時から、横浜

市従会館で開かれました。同文化祭実行委員会が準備してきたもので、参加者は述べ250人を超える大盛況。午後3時過ぎまで、交流が続きました。

み物、サークルのとりくみ等の力作が飾られ、切り絵の実演コーナーもあり、「私も挑戦してみたい」などの声も聞かれました。

4階の演芸会場の舞台では、歌や踊り、リフォーム・ファッションなどが次々に披露され、テーブルでは、軽食をとりながら交流の輪があちこちにできました。

おすすめの1冊

『石巻赤十字病院の100日間』増補版

石巻赤十字病院・油井りょう子著

本書は2011年3月11日の地震発生から100日間の災害マニュアルに基づく記録からまとめ、同年10月に刊行された作品の増補改訂版である(2016年5月13日刊)。

人口22万人の石巻市で、唯一基幹病院として大きな被災を免れ、多くの市民を救った経験が強烈な体験として記されている。



地震発 生からわ 文庫税 600円+ ずか1時 小学館 間て救急 患者の受

け入れ準備ができたのは、すでに災害対策マニュアルを検討し、訓練を重ね、人員配置が行われていたからであった。

とはいえ、想定外の現象に対する職員の不眠不休の闘いは、被災者でもあり、自分の家族の安否の解らない不安を抱えたままであった。

勿論、他所からの様ざまな救援に助けられており、日頃の連携の重要性が改めて確認され、また助けられる側の心得も充分汲み取ることができ。ぜひご一読を。(新井通子)

お・し・ら・せ

「歴史教室」は 継続して活動します

「歴史教室」は昨年12月2日の講義以来、活動を停止していましたが、10月4日に総会を開き(会員8人出席)、次のとおり継続して活動することになりました。

- 1、会員で役割を分担する。代表世話人≡湯川勉。他に会員7人が企画・連絡・会計などを担当。
- 2、年に数回、講義・散策を実施する。講義は引き続き生方武羅夫氏に依頼する。
- 3、会の運営費は従来の会費の残額と、講義時と散策時の会費を充てる。
- 4、当面の予定として、来年3月に散策を実施する。

以上、「歴史教室」は、こだま会の歴史的な趣味の会として、継続して活動します。いままでのこだま会の皆さまのご協力に感謝して、「歴史教室」への参加を願ひし、ご報告申し上げます。

(代表世話人≡湯川勉)
《連絡先》045(212)3179
3179(こだま会事務所...
毎週火10時〜16時)

予告!! 予告!! 予告!!

●歴史教室(散策)

とき 2017年3月(予定)
場所 未定
連絡先 こだま会事務所045(212)3179

●俳句サークル「こだま句会」

月例句会(毎月第2木曜日13時〜)
12月8日/1月12日
ところ 県庁本庁舎6階共用会議室
指導 太田土男先生(俳人協会)
会費 800円
申込先 こだま会事務所045(212)3179

●こだま会文化レク企画「てく・テクの会」

「東京・谷根千散策」
とき 12月1日(木)
集合 JR「日暮里」駅北口改札
10時集合
日程等 同封のチラシ参照
申込 こだま会事務所045(212)3179
FAX045(212)3178へ

●ファミリースキー・ツアー

とき 2月9日(木)夜発〜12日(日)着
ところ 白馬乗鞍スキー場
日程等 同封チラシ参照
参加費 3万4000円(バス・宿泊代等)
主催 神奈川県職労支部合同企画
問合せ先 神奈川県職労 045(212)3179



フランス式の煉瓦壁の観察



宝川温泉でリフレッシュ

ものを見本に瓦職人が作成したとの
営、横須賀造船所設計のバスチャン
が製糸場の設計者であり、鉄水槽は
横須賀造船所が製造、レンガはフラ
ンス式レンガ積みで横須賀造船所の

太一郎は一時期経
園の創始者・原富
係では、横浜三溪
神奈川県との関
との説明でした。
の实体はなかった
含め『女工哀史』
3等、等外の4段
階)と厚遇され、
民間払い下げ時代
料で、月給1円75銭〜75銭(1等〜

(2面より続く)
糸場と絹産業遺跡群」は世界遺産に
登録されました。
当初は士族の娘が3分の2
フランス人設立指導者ブリユナの
もと、3年間で指導者になり故郷の

工場で働く女工を育成、当初は士族
の娘が3分の2を占めていました。
労働条件は、労働時間1日平均7
時間45分、年間70日の休暇(日曜、
夏・冬休暇)、医療、食事、寮費無
料で、月給1円75銭〜75銭(1等〜

ことでした。
◇「女工哀史」はなかった?
ガイドさんの説明で一点気になっ
たのは、民間時代も含めて、「女工哀
史はなかった」と言い切ったこと
す。赤字経営が続いた製糸場は民営
化され1893年(明治26)三井家に、
次に原合名会社、昭和に入って片倉
製紙紡績会社経営と変遷しました。

ガイドさんが話した労働条件は官
営時代の事で、三井時代にはストライ
キが発生し、労働時間も12時間に
延長されていたのも事実です。明
治政府が1901年(明治34)に行っ
た職工調査書である『職工事情』に
ある14〜18時間労働の実態と全くか
け離れた世界であったとは思えませ
ん。負の遺産の部分も含めて真実を
知らせるべきではないでしょうか。
◇宝川温泉で疲れをいやす
見学後昼食をとり、夕方宝川温泉
に到着し、雨の中露天風呂に。20
0畳の宝の湯をはじめ4つ(1つは
女性専用)、清流と緑、外国人客と
の裸の会話など、それぞれ疲れをい
やし、温泉の効用で腰の痛みを解消、
足取りが軽やかになった人も。
翌日の目的地・谷川岳天神平は、
残念ながら雨と風で断念し、月夜野
ビードロパークに変更。全員が元氣
に横浜駅に到着し、楽しい旅行は無
事終了しました。
(加瀬文隆)



-49-

70数年前の戦時中を思い出して

横浜で1942年4月18日から1945年8月までの間に、28回の空襲がありました。一番被害が大きかったのは、1945年5月25日でした。

◆ ◆ ◆
その頃私は、県庁の内政部金属回収課で、戦車に使う貴金属やアルミ硬貨等を県民から買い取り、管理する仕事をしていました。

空襲は午前中でした。「ザー」という夕立のような音が聞こえ、約1時間半の間、B29の爆撃機が500機、約40万発の焼夷弾を落としました。あたると直ぐに飛び散る仕組みになっていたので、木造の多い横浜は、あっという間に焼き尽くされてしまいました。焼失戸数は約10万戸。空襲警報解除になって、窓から見たのは野沢屋デパートや太田倉庫くらいで、ほとんど焼かれ、火の海のようでした。

その後、2時頃帰宅するように指示され、数人であるべく大通りを歩きましたが、炎で顔が熱くて

たまりませんでした。倉庫がぼつんと残っていたので、自分の家と解りましたが、家の跡形もありませんでした。避難所の吉田小学校に行くのと、父と姉たちは無事でした。姉は近くの防火用水に荷物を背負って飛び込み、焼夷弾が雨の

ように落ちてくるので、水中に沈み火を消しあつたそうです。その晩は、小学校で毛布一枚を姉と掛け合い、足は伸ばせませんでした。が、何とか寝ることができました。



小川達子さん

戦争は絶対してはならない



横浜大空襲(1945年5月29日)、B29が500機で油脂焼夷弾40万個を投下。左手前は桜木町駅

翌朝、我が家に行き、呆然としていると、突然、トラックが止まり、荷台の大勢の人のなかから義兄が飲物とのり巻を沢山持つて見舞いに来てくれました。空腹だったので、どんなに有難かつた事か、隣人たちも呼び、皆で食べた美味しい味は忘れられませんが、従弟も伊勢原から自転車で、おにぎりや着物等を届けてくれました。県外からも必需品を頂き大変助かりました。

◆ ◆ ◆
小学校に一晚、防空壕に一晚、県庁の自分の机の上に二晩泊まりましたが、その後は羽衣町から小机駅まで歩き、電車に乗り継ぎ、母の実家・陸合村棚沢へ疎開することになりました。今の外国の難民同様です。ぞろぞろと駅に向う道には、亡くなった人がごぎで被され、手や足が出ている人もいたので、「下を見ないで歩きなさい」と言われ、前の人に遅れないように夢中で歩きました。

◆ ◆ ◆
満員電車に乗った時は、座席に履物のまま立ち荷置につかまり、降りる時は窓から降りる人もいました。指定の出口に行かれず、私も反対の出口から線路に飛び降り、下駄が割れてしまいました。何とか疎開地の川口屋に到着しましたが、ここで一緒になれたはずの叔母たちは、途中の焼夷弾の直撃で皆亡くなってしまいました。

◆ ◆ ◆
疎開先から県庁への通勤は、空爆を避け、やっと着いた時には昼。土曜日は直ぐに帰宅で、とても大変でした。父の知人の厚意で弘明寺の家、生麦の家とお世話になりました。その後、高座愛甲地方事務所に転勤になり2カ月後、終戦となりました。

◆ ◆ ◆
戦争の恐ろしさや苦しみは忘れない、思い出したくないと思いたいが、「戦争は絶対してはならない」と、次世代に伝えなければならぬと思います。

小川達子

『写真でみる横浜大空襲』より

ひとりぼっちの高齢者をなくそう

憲法をいかし、人間らしく 生きるために手をつなごう

第30回日本高齢者大会in東京レポート

共同センターの古堅宗嘉さんです。「基地問題は日本の真の独立の問題。全国に基地を分散するのはアメリカを喜ばすだけ」、「辺野古への移設反対は1997年1月の辺野古学習会の13人から始まった。長年のたたかいを経て、今はオール沖縄になった。これからはオール日本を目指していく」など、現地で長年たた



大正大学で24の講座や22の分科会が



全体集会が開かれた
東京国際フォーラム

が世界のなかでいかに異常であるかを説明しました。「安倍政治ノー」の共闘継続を呼びかけ(鳥越俊太郎氏)
2日目の鳥越俊太郎さんは、「都知事選は劇場型選挙に浮動票を取られた。日本人はいったん風が吹くと、もつていかれてしまう。今は9条改

「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」を合言葉に、第30回日本高齢者大会が8月28日と29日、東京で開かれました。1日目の会場は大正大学。24の講座、22の分科会に分かれて、全国から4000人以上が参加。2日目は東京国際フォーラムに5000人以上が参加し、鳥越俊太郎さんの記念講演を中心に開かれました。こだま会の参加者は、1日目が2人、2日目は6人でした。

オール沖縄からオール日本へ

私を受けた講座の前半テーマは、「沖縄の戦いに学び、連帯するため」で、講師は新基地建設反対名護

かつてきた古堅さんならではの言葉は、胸に響くものがありました。後半のテーマは、「アメリカの世界戦略と日本の基地問題」。講師は前参議院議員の小泉親司さんです。「新基地を建設しているのは世界で日本だけ(辺野古、高江、京都新基地)。海兵隊受入れは日本だけ」などの例をあげて、日本の米軍基地

最後に大会決議を採択し、来年開催の沖縄県に大会旗を引き継いで終了しました。5000人もの大会を開く組織力と、遠方から参加した高齢者のパワーに感動しました。(友井眞言)

神奈川県職員九条の会

平和のつどい

と き●12月10日(土)13時受付。14時開会～16時30分
 るころ●波止場会館多目的ホール
 みなとみらい線「日本大通り駅」下車徒歩4分
 テーマ●「安全保障法制」施行で何が変わったか
 講 師●田淵大輔弁護士(神奈川フィル争議主任弁護士)
 資料代●500円
 問合先●☎090(2473)2681 (佐伯義郎・事務局長)

全国自治体退職者連絡会第19回定期総会

憲法・暮らしと平和・民主主義を守り、「安心して暮らせる社会」へ

全国自治体退職者連絡会第19回総会が8月20日、岡山県国際交流センターで開かれました。気温36度と大変な暑さのなか、全国から46人が参加。当会からは加藤利秋相談役(連絡会事務局次長)、仲戸川実、友井真言の両副代表が参加しました。

総会は加藤事務局次長の司会で始まり、2015年度経過報告、決算、2016年度活動方針、予算が全員一致で採択されました。この間、議事発言以外に10人から1時間半にわたって発言があり、これまでの総会のなかで一番多数の発言になったということでした。

発言内容で共通するのは、「戦争法」批判、参議院選挙、野党共闘の評価、都知事選に関することでした。その他、愛知県から「国民年金はわずか5万円、公務員の制度だけの議論では国民の理解を得られない」。

大阪府から「参議院選で維新が2議席、自民・公明で2議席、改憲勢力が独占した。今後、維新政治には注意する必要がある」。京都府から「会員獲得について、再任用で残る人へのアプローチに工夫が必要」。岩手県から「社会的活動2割、遊び8割で活動。原爆抗議の12時間ピースランや、100^キの反核平和ランを実施した」などの活動が報告されました。



総会に次いだ相次ぎの発言

友井真言さんの報告の会場の様子

当会からは、『こだま会報』1113号を配布し、福島原発や浜岡原発バスツアーの報告や原発の危険性、廃止を訴え、また、神奈川県「戦争法」反対国会等行動の報告のなかで戦争法廃止とさらなる野党共闘を訴えました。趣味の会の活動も紹介しました。

最後に、憲法・暮らしと平和・民主主義を守り、「安心して暮らせる社会」の実現のために奮闘するといふ総会決議(案)が提案され、全員一致で採択しました。(友井真言)

「戦争法」強行可決1年 抗議行動に2万3000人

9/19

2016年9月19日は戦争法強行可決から1年目の日。昨年と同じく秋雨がしとしと降っていました。

国会行動から野党共闘が生まれ、7月の参議院選では11の1人区で接戦を乗り越えて勝利を勝ち取り、安倍晋三首相に「決して勝つてはいないんだからな」と発言させて、焦りを与えました。

そして、毎月19日の行動を通じて市民の運動はますます盛り上がり、この日も国会前に2万3000人もの人たちが抗議行動に参加。こだま会からは20人以上の会員が参加しました。

集会の最初に民進党・岡田前代表、共産党・志位委員長、社民党・福島副代表、生活の党・木戸口氏が連帯の挨拶をしました。

発言で共通しているのは、「戦争法は1年たっても、どこまでいっても違憲状態にある」ということ。

戦闘状態にある南スーダンへの自衛隊派遣の危険性。駆けつけ警護の新任務が加えられ、自衛隊員が殺さ

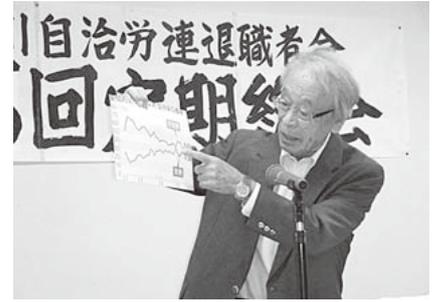
れ、現地の人たちが殺される危険性が高まっています。南スーダンに自衛隊を派遣することは戦争への第一歩、これからの日本の運命を決める第一歩になるのではないのでしょうか。

元自衛官の発言が深刻でした。「安倍よ、お前が戦闘訓練をして最前線に立ってみろ。戦闘の恐ろしさを味わってみろ。南スーダンで必ず自衛隊員が死ぬ。お前がそんな前線に立ってみろ」という激しい言葉、口調でしたが、切実な自衛官を代表しての声に魂がゆさぶられました。

民進党の新しい体制を見て、「野党は共闘」という声が市民団体から必死になって訴えられていました。野党共闘なくして衆議院選挙はたたかえないということは誰が考えても明らかです。

時々強い雨がふるなかで隣の人の傘の雫がシャツをびしょ濡れにするほど大変な混雑。参加者は「戦争法」の廃止と沖繩のたたかいへの連帯を叫び続けました。(丁)

神奈川県自治労連退職者会 第24回定期総会



方針を提案する青沼慶祐さん

戦争法 廃止へ 社会保障制度 の充実を

神奈川県自治労連退職者会第24回定期総会が10月13日、横浜市従会館で開催されました。

この1年、会は社会保障改悪反対集会や学習・署名活動、神奈川県フェルン争議支援、「9条守れ」の運動、

戦争法廃止「19日行動」、鎌倉市職労支援など平和と民主主義のとりくみを行ってきました。文化運動では「手づくり文化祭」をとりくみました。

全国自治体退職者連絡会には役員を派遣。組織拡大では課題を残しています。創意工夫してこれに挑戦しようとして確認しました。(鳥居伸太郎)

(新役員紹介)(敬称略)
会長 長・植木眞理子(県)

副会長 眞次英一(横浜)
内田次敏(鎌倉)
事務局長 高須昌和(横浜)
事務局次長 青沼慶祐(県)

幹事 小島八重子(県) 友井眞言(県) 仲戸川実(県) 田中俊一(横浜) 安部直幸(横浜) 坂本あや子(鎌倉)

会 計 渋谷矩宜(横浜)
会計監査 酒井道生(県) 金子豊(横浜)

2016年7月26日未明に県立津久井やまゆり園で起きた死者19人、負傷者26人にも及ぶ殺傷事件は、障害者の「人間としての尊厳」、「生きる権利と自由」を一方的に奪うものであり断じて許すことができません。亡くなられた方々のご冥福を心から祈念するとともに、負傷された方が一日も早く回復され、直接処遇職員であるやまゆり園で働く仲間とともに、以前の園における生活に戻られることを心から願うものです。

重度知的障害者支援施設である県立津久井やまゆり園は、県立施設として初めて指定管理者制度に移行した施設で、移行する2005年4月までは県の直営施設として、私たち労働組合の組合員が働いてきた施設です。

指定管理者制度は「民間活力の導入によるコスト削減施策」の一環として導入された制度です。制度の導

入にあたって、私たちは家族会や施設周辺の住民の方々とともに「処遇水準を低下させない」とりくみをすすめました。「県内で実績のある委託先選定」「長期契約」「現行人員配置維持」「専門職配置」「移行後県職員経過的配置(3年)」などのための予算の確保を県との間で確認し、県直営時の水準をある程度維持する

県立津久井やまゆり園における殺傷事件について

2016年8月2日 神奈川県職労連執行委員会

ことができました。「処遇水準を低下させない」とは、どんなに障害が重くても、地域社会ともつながりをもちながら、入所者が人間らしく生活できる条件と環境を作りあげることであり、その結果として障害者の存在と尊厳が守られると考えます。

今回の事件は、こうした私たちの願いと思いに真っ向から敵対するも

のであり、断じて認めることはできません。報道されている犯人の考え方であるナチスのジェノサイド思想(多様性を否定し、特定の価値観により不必要とした者を隔離・抹消する考え)が生まれる土壌が、いまの日本社会にあるとすれば、その存在に警鐘を鳴らし、払拭して社会を変えることが、私たちに求められてい

ると考えます。

事件を受け、神奈川県も国も二度とこのような事件が起こることのないよう対策を講じていくとしています。

施設警備強化や犯人が精神疾患で措置入院していたことから措置解除やその後の監視体制の強化などが考えられています。しかし、その対策が隔離や監視の強化となるとす

れば、それは手法においてジェノサイドと同じことになりかねません。再発防止策の策定にあたっては、神奈川県が指定管理者制度移行時にしてきたように、障害者や精神疾患患者の尊厳と人権を受け止め、そのことを自ら実践している直接処遇職員や医師・看護師、そして家族の声を十分に聴きながら進めることが重要と考えます。

いま、福祉施設の直接処遇職員、医師・看護師は、劣悪な勤務環境と労働条件下に置かれています。防止策の実施にあたっては、障害者や精神疾患患者、その家族と接する労働者の処遇改善もあわせて必要と考えます。

津久井やまゆり園のような事件が二度と起らないよう、神奈川県職労連は、障害者の人間としての尊厳が守られる社会の実現に向け、とりくみを進めていきます。

こだま俳壇(10月)

秋晴れやピエロの踊る野毛小路

木村 武子

宅配の青年の肩月かかる

柳瀬 節子

物言わぬ仏の前の菊一輪

白井保次郎

撫子の細き茎にも芯があり

中村 桂子

綿菓子分けおうてゐる秋祭

田中 一男

窓あけて秋めく風を通しけり

鈴木志げ子

もう米寿まだ家事してます竹の春

横川美代子

垂れ下がる秋の零れる売家かな

島田多嘉子

打たせ湯に紅葉少し揺れにけり

友井 眞言

月渡るあまたの門や中華街

三井 光子

秋澄むや月の語りしものがたり

坂 守

露天風呂へ吊り橋渡る秋の暮

松尾佐知子

茶草場は産地の遺産芒刈る

小川 水草

休耕田賑わしている花芒

島海 敏雄

秋の色山に感謝の葡萄かご

後藤 貞夫

パンパスを手に持ち来たる秋の会

高橋 和江

翡翠が道案内の秋日暮

井村 友彦

父母のしてきしことを月祀る

講師 太田 士男

目から鱗

ド・素人の「楽しい料理教室」雑感

64年の人生でエプロンをした記憶がない私が9月25日、フォーラム南太田で開かれたこだま会の料理教室に参加した。島寿司、サバの味噌煮、イナダのあら味噌汁などの料理に、エプロン姿がよく似合う「昔の若者」12人が挑戦した。以下、私の驚きと発見の料理教室雑感です。

◆三枚おろしは「お尻」から 今回のメインは島寿司だ。あの八丈島の島寿司だ。釣り名人・仲戸川実さんが前日、江ノ島沖で釣り上げたイナダが主役。新鮮で最高の食材だ。料理長・飯塚武弘さんの三枚おろしが始まった。包丁を最初にあてた部位は、何とイナダの「お尻」だ。



▶12人が挑戦

「お尻」から頭部に向かつて包丁が滑る。私の常識では最初は「頭部」切りなのに…。無駄なく素早く骨もなく、ていねいな包丁さばきで島寿司のネタが浸けダレの中に並んだ。脇役の「辛子」がお猪口の底で逆立ちして出番を待っている。香り、風味を逃がさない細やかな扱いだ。役者がすべて揃い仕上げは握りだ。シヤリは20gが目標なのだが、参加者の手には38gのシヤリがべたつき離れない。

口を近づけ、静かにソーツとひと吹き。すると表面のアクが鍋の低い側に集合、そこを鳥のくちばしの形をしたお玉でサアーツとすくい取る。ほんの数秒間だ。エーッ！もうアクが無い。手品のようなアク取り早業に「目から鱗」だ。

◆ソーツとひと吹きアク取り早いイナダのあらを煮込み、アクが出ています。アク取りだ。料理長の横で私は、彼の手の動きに驚いた。彼がコンロの上の大きな鍋の片側の取っ手を少しだけ上げ、そして、表面の高い側に

◆寿司職人に女性がいなくてほんと？ なぜ？ ずばらで大雑把でええ加減な私は、やはり、「作る人」でなく「食べる人」がいい。今回の収穫は、今までに食べたことのない「本物」のサバの味噌煮を味わったこと。これなら自分でも「出来るぞ」と感じたこと。



田中和子さんの作品

絵手紙



奥津弘久さんの作品

最後に一言。寿司屋で女性の握った寿司を食べたことある？ 握り職人に女性がほとんどいないって、ほんと？ なぜ、なぜなの？ ヒントは「体温」。その答えに納得した。驚きと発見の5時間は楽しかった。ありがとうございました。

(杉原克典)